

大田市立病院新改革プランの点検・評価報告書  
(令和2年度 実施状況)

令和3年10月

大田市立病院運営評価委員会

## 目 次

1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告	…1
2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項	…2
3. 大田市立病院運営における令和2年度の実行状況及び結果	…4
4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況	…12
5. 大田市立病院新改革プラン運営評価委員会委員名簿	…15
(参考)大田市立病院概要	…15

# 1. 大田市立病院新改革プラン点検・評価報告

良質な医療の提供と健全な経営の確立のためには、院内組織による検討だけでなく、外部組織による客観的な評価・提言が必要である。

よって、大田市立病院新改革プランでは、プランの実施状況の点検・評価について、外部有識者からなる運営評価委員会を設置し、平成30年度から4か年にかけて毎年行うこととしている。

今回、プランの令和2年度進捗状況に対する点検・評価を行ったことからその結果を報告する。

団体名	大田市
プランの名称	大田市立病院新改革プラン
策定日	平成29年3月29日
計画期間	平成29年度～令和2年度

## (1) 点検・評価方法

大田市立病院運営評価委員会による点検・評価

- ・委員…外部有識者9人
- ・委員会開催日…令和3年8月30日
- ・方法…委員9人による項目別点検・評価を実施

### 【項目】

- 1) 収入確保対策、2) 経費削減・抑制対策、3) 経営安定化対策、4) その他の対策

### 【評価区分】

- A…目標が達成されている
- B…取り組みはしているが、現状未達成である
- C…目標が未達成である

## (2) 点検・評価結果

(単位:人)

項目	評価区分		
	A	B	C
1) 収入確保対策	7	2	0
2) 経費削減・抑制対策	5	4	0
3) 経営安定化対策	6	3	0
4) その他の対策	6	3	0

※表中の数字は評価した委員の人数

## 2. 大田市立病院新改革プラン個別評価事項

項目	評価・改善事項
1 収入確保 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの医師確保対策が功を奏しつつある。常勤医師の確保が進んでいる。さらに診療機能強化を図ってほしい。</li> <li>●病診連携、病病連携は今後も強化を図る必要がある。大田医療圏域の4病院を含め、市内並びに美郷町の開業医との連携をさらに深めてほしい。</li> <li>●退院支援がしっかり行われており、病床を効率よく運営している。</li> <li>●病床管理は経営の根幹であり経営健全化委員会、病床コントロールチーム等連携をとって引き続き運用してほしい。市民からよく聞くと、「すぐ退院させられる」ことへの苦言を聞く。入院から退院までの入院期間は、しっかりと患者・家族に向き合って退院手続きをとってほしい。</li> <li>●コロナ禍の中で頑張っておられると思うが、病床利用の向上、その上で労働分配率を下げるのが重要。</li> <li>●病院内での看護の充実と、患者が利用している施設との連携があると退院後のより良い介護につながるのではないか。</li> <li>●専門外来の実施、訪問看護、退院支援、助産師外来などは市民の皆さんに直結しているだけに「よく見てもらえるよ」と高評価を聞く。認知症看護については、ご家族にとって心強い対応だと思う。</li> <li>●検診事業については、検診部門としてもっと関係機関と協議して受け入れ態勢を検討してほしい。</li> <li>●まめネット、人間ドックにしても行政の積極的な支援がなければ、目標達成は絵に描いた餅にすぎない。特に人間ドックの受付から周知まで行政で実施している現状から一段の努力が必要。</li> <li>●一人の患者に対する治療に対して複数の診療がされている様で患者が混乱しているとの報告を耳にする。まさにチームとしての対応が求められているケースではないだろうか。</li> <li>●窓口対応、特に精算(会計)について時間が掛かりすぎとの批判を受け改善されたと理解しているが、「喉元過ぎれば熱さを忘れ」ては困る。窓口は病院の顔であることから笑顔と共にスピードも取り入れて欲しい。</li> <li>●市民の期待する市立病院として、病院の顔である受付の接遇には特に配慮求める。理由は委託業務職員にもしっかりと「市民から信頼できる窓口業務職員」として対応を望む。事務的であってはならない。</li> <li>●全職員の接遇教育は継続して行ってほしい。</li> <li>●手術件数等増加を昨年同数の看護師でクリアしたことを評価したい。</li> <li>●病院事業管理者による病院経営とあるべき地域医療の意思が徹底される様に期待したい。</li> <li>●新型コロナ禍の中で、病院経営も厳しい環境にある一方で、職員の努力で成果をあげてきたと判断する。</li> <li>●コロナの影響が大いにある中で、未達成の部分が見られるが、収入確保における経営努力は評価する。</li> <li>●高額医療機器の稼働率も前年度対比でマイナスとなっている。保有する各部署でしっかりと管理運営してほしい。</li> <li>●査定減対策を医師等にレセプトへの記載に万全を期すなど事前の対策を施してほしい。</li> </ul>
2 経費削減・ 抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経費を削減することで、無理な労働や運営にならない事を願いたい。</li> <li>●病院としての取り組みに限界を感じざるを得ない。</li> <li>●特に人件費の抑制が経営全体に大きく影響するのではないか。</li> <li>●時間外勤務手当については、各職種の状況を良く精査してほしい。</li> <li>●薬剤、診療材料の経費削減が着実に進んでいる。</li> <li>●医薬品、試薬、放射線材料、医療用消耗品などの購入努力をお願いする。特に高額医療機器などの選定及び購入は、稼働を良く精査したうえで検討願いたい。</li> <li>●ベンチマークシステムを活用しつつ、また、近隣病院との共同購入により、診療材料費・医薬品費の削減にさらに努力してほしい。</li> <li>●材料費対医業収益比率が目標値を下回っている。計画値に戻す努力が望ましい。</li> <li>●特に委託経費の縮減対策も講じてほしい。</li> <li>●外部コンサルタントによる指摘事項、改善事項を評価委員会にも公表してほしい。コンサルタント業務が経営改善にどれだけ貢献しているかわからない。</li> </ul>

項目	評価・改善事項
3 経営 安定化 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営状況は予断を許さない状況にあると思われる。特に、人員配置は人材確保と適正配置という相反するところだろうが、引き続きの取り組みをお願いしたい。</li> <li>●全職員が経営安定に資することができれば、積極性が出てくるのではと考える。</li> <li>●医療従事者の確保・育成に努力されており、今後も島根大学医学部、島根県が主催する医療審議会、県内基幹型臨床研修病院連絡会等連携を密にされることをお願いしたい。</li> <li>●インセンティブ支給を廃止したようだが、こうした制度導入も地方公営企業法全部適用によって可能になったと理解したい。</li> <li>●診療科の休診は改善してほしい。</li> <li>●1日当たり平均入院患者数を180.0から190.0人に戻す努力と外来患者数の増、また、人間ドックや検査等の充実を図り、収益増を図るべき。</li> <li>●経営健全化検討委員会の更なる努力をお願いし、市立病院の経営改善に万全を期してほしい。</li> <li>●経営健全化検討委員会の取組の外部への見える化をしたらどうか。</li> <li>●できればもっと資料提供を望む。資料2でデータは示されているが、評価委員会が8月の開催であるならば決算報告資料もできていると思う。議会との問題もあるが速報値という形でも作成できないか。また、高額医療機器の稼働状況、稼働した額など作成できないか一考をお願いする。</li> </ul>
4 その他の 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害拠点病院として災害派遣医療チーム会等更なる機能強化を図ってほしい。</li> <li>●病院独自に災害対応訓練をすると良いのではないかと思う。</li> <li>●整形外科、呼吸器内科、消化器科等で医師数増となっている様でもっとPRをし患者数増に繋がればと思う。</li> <li>●広報活動についてまだまだ周知不足な面があるので情報発信の強化が必要。</li> <li>●二次医療圏の中核病院としての重責を担いつつ、池田診療所への医師等派遣は地域医療の維持確保に大きく貢献している。今後とも地域医療確保のための支援をお願いしたい。</li> <li>●新病院も完成し、市民の病院であることを職員は忘れてはならない。</li> <li>●市立病院ボランティア「カーネーション」への休憩室、ユニホームなど物資充実にも努力してほしいし要望事項もしっかりと聞いてほしい。</li> <li>●公益性、公共性の高い医療の確保、広報活動などの頑張りを見ることができた。新型コロナ禍で思う様な活動が出来ずに、発信不足になることもあるかと思うが、病院の取り組みを市民の皆さんに知っていただくことが大切かと思う。</li> <li>●新型コロナ禍の中での各事業の取り組みは大変だが、できる事業については積極的に推進してほしい。特に市民からの意見、要望などには積極的に取り組んでほしい。</li> <li>●改革プラン最終年度にあたり、市立病院には更なる発展を望む。</li> </ul>

### 3. 大田市立病院運営における令和2年度の取組状況及び結果

1) 収入確保対策		
実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
①診療機能の維持、充実	1 常勤医師確保による診療機能強化	<b>【◆取組結果】</b> ○常勤医師数9人増 ⇒大田総合医育成センター増減なし ⇒初期臨床研修医3人増(令和元年度末:3人→令和2年度末:6人) ・令和2年度末常勤医師数:38人(対前年度末比:+9人)  ※医師確保対策の取り組みについては「3)-①医療従事者の確保」に記載。
	2 看護師確保による7対1看護体制の堅持	<b>【◇取組状況】</b> ○看護師修学資金の貸付を継続。 ・令和2年度修学資金貸与者:9人、貸付額:540万円 ○6月15日及び17日で県内看護師養成学校等5校を訪問。 ・松江総合医療専門学校、島根県立大学、出雲医療看護専門学校、浜田医療センター附属看護学校、石見高等看護学院 <b>【◆取組結果】</b> ○常勤看護師の採用(看護師9人) ・令和2年度末常勤助産師数:15人(対前年度末比:増減なし) ・令和2年度末常勤看護師数:152人(対前年度末比:増減なし)
	3 回復期医療の充実	<b>【◇取組状況】</b> ○他圏域で骨折治療後または脳神経疾患リハビリ期患者の積極的な転院受入。 ○整形外科観血的骨接合術術後の患者を早期から回復期リハビリテーション病棟に転入、回復期に要するリハビリテーションの提供。 ○病棟での日常生活動作能力回復の取組を積極的に実施。 ○新病院施設を活用し、リハビリ室のほか病棟やホールでの活動機会を積極的に儲けることによる、疾患別リハビリの算定増加と早期回復。 <b>【◆取組結果】</b> ○令和2年度転院受入件数:165件(うち回復期リハビリ目的の紹介は100件)(令和元年度:226件) ○令和2年度回復期リハビリテーション病棟平均入院患者数:39.9人(令和元年度34.7人) ○整形外科常勤医師着任により急性期病棟からの受入増加、骨折手術後のリハビリ患者有。
	4 急性期医療と回復期医療に特化した病棟再編による診療単価の増加	<b>【◇取組状況】</b> ○病床コントロールチーム会、日々のラウンドによる適切な病床管理。 <b>【◆取組結果】</b> ○入院診療単価が全体で1,939円増加。 (令和2年度41,792円、令和元年度39,853円)
	5 外来化学療法の拡充	<b>【◇取組状況】</b> ○病棟配置のがん化学療法認定看護師による外来、在宅での横断的な看護ケア実施。 ○病床数2床増(新病院:6床(パーテーション、テレビ、Wi-Fi、個室あり)、旧病院:4床) <b>【◆取組結果】</b> ○外来化学療法加算算定件数(令和2年度:326件、対前年度比:▲26件)

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
①診療機能の維持、充実	6 専門外来の実施	<b>【◆取組結果】</b> ○リウマチ外来(毎週月・木)、腎臓内科(毎週火)、血液・腫瘍内科(毎週水・木※平成28年3月までは週1回)ペースメーカー外来(第2金)、小児神経外来(第1木)、小児心臓外来(毎週火)、乳児健診(毎週火)、小児予防接種(毎週金)、女性泌尿器科外来(第1・3・5木)、緩和ケア(第3木)、発達障害外来(第2木) ○看護外来の継続実施(平成30年9月) 糖尿病外来(毎週水)、ストーマ外来(毎週木)
	7 病診連携、病病連携の推進	<b>【◆取組結果】</b> ○他院からの紹介率:35.5%(対前年度比:+1.8%) ○他院からの各種検査の外部依頼を受託。 ・CT、MRI:1,651件(対前年度比:△179件) ・骨密度:151件(対前年度比:△63件) ・遠隔画像診断1,556件(対前年度比:△359件) ○開業医との連携強化を図るため、大田市・美郷町内23施設に対して訪問を実施。(令和2年8月～9月)
	8 開放病床の利用促進	<b>【◇取組状況】</b> ○医師会へ開放病床(5床)の利用促進の依頼。 <b>【◆取組結果】</b> ・利用者数:27人(対前年度比:+7人)、 ・利用日数:404日(対前年度比:+99日) ・利用率22.1%(対前年度比:+5.4%)
	9 訪問看護、訪問及び通所リハビリテーションの提供	<b>【◇取組状況】</b> ○訪問看護サミット等の研修参加により、訪問看護の最新情報入手。 ○病棟業務等を行っている看護師を兼任で引き続き配置することにより訪問看護提供に係る体制を整備。 ○従前の療法士配置体制を維持、圏域における在宅リハビリテーション機能を継続して提供。院内医師の協力を仰ぎ継続利用に必要な診察を行う体制を整備。 <b>【◆取組結果】</b> ○令和2年度患者数(対前年度増減) ・訪問看護:4,127人(+219人) ・訪問リハ:1,622人(+98人) ・通所リハ:427人(△59人)
②医療の質の向上、患者サービスの向上	10 まめネットの積極的活用	<b>【◇取組状況】</b> ○参加・閲覧同意の普及活動。(ポスター掲示、幟の設置) <b>【◆取組結果】</b> ○参加同意及び閲覧同意累計件数:4,668件(令和2年度末) ○新規参加同意及び閲覧同意件数:211件(対前年度比:△416件) ○当院が連携カルテを閲覧した件数:411件(対前年度比:+238件) ○他院が当院の診療情報を閲覧した件数:1,252件(対前年度比:+155件)
	11 入院患者の病態に応じた適切で柔軟な病床管理	<b>【◇取組状況】</b> ○病床コントロールチーム会(毎週金曜日)、日々のラウンドによる適切な病床管理。 ○院内HPのトップページに空床数を表示し、空床状況を周知。

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
②医療の質の向上、患者サービスの向上	12 退院支援の取り組み	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域医療連携室が中心となり、入院早期から患者・家族と面談し、意向確認しながら院内多職種及び院外関係機関と連携を図り、退院支援。</li> <li>○医療ニーズが高い患者が安心・安全に在宅医療に移行し、在宅療養を継続できるように自宅訪問し、退院前後訪問指導を実施。</li> <li>○院内外から求められる役割が発揮できるように平成30年度に作成した退院調整看護師育成プログラムを活用。</li> <li>○新病院開院に合わせて入院前から退院後の地域生活を見据えた支援を行う入退院センターの運用開始。</li> <li>○総合診療科のカンファレンス開始。</li> </ul> <p><b>【◆取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○退院支援加算 I の算定。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定件数：1,288件(全ての退院患者の約40%程度)</li> </ul> </li> <li>○退院後訪問指導料の算定。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定件数：0件(令和元年度：2件)</li> </ul> </li> <li>○退院時共同指導料2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定件数24件</li> </ul> </li> <li>○退院前訪問指導 70件</li> </ul>
	13 認定看護師の育成・配置による高い看護ケアの提供	<p><b>【◇取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染対策室に専従で感染管理認定看護師の配置。(平成28年4月1日感染防止対策加算 I 取得)</li> <li>○糖尿病看護認定看護師(平成27年6月)、皮膚排泄ケア認定看護師(平成27年4月)を外来に配置。病棟、在宅での看護ケア実施。糖尿病看護外来にて、指導・フットケアを実施。</li> <li>○がん化学療法認定看護師(平成29年7月)を病棟に配置。外来、在宅での看護ケアを横断的に実施。</li> <li>○アドバンス助産師を外来に配置。乳腺炎にかかるケア、授乳や生活に関する指導、心理的支援等の包括的なケア及び指導を実施。助産師外来にて、正常妊娠の方の健診や保健指導を実施。</li> <li>○認知症看護に係る適切な研修を修了した看護師を病棟に配置。認知症ケアチーム会を月1回行い、事例検討やマニュアルのメンテナンスを実施。認知症のアセスメントや看護方法等に係る適切な研修を受講した看護師を全ての病棟に3名以上配置し、認知症症状の悪化を予防、円滑な身体疾患の治療を提供。</li> </ul>

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
②医療の質の向上、患者サービスの向上	14 健診事業の継続、充実	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドックを毎週2日(火、金曜日各定員5人)継続実施。</li> <li>○検診検査の継続実施。</li> <li>○乳がん、子宮がん検診の継続実施。</li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドック <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度実施件数:160件(対前年度比:△10件)</li> <li>・令和2年度受託先団体:7団体(対前年度比:+1団体)</li> </ul> </li> <li>○健診検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度実施件数:1件(対前年度比:△24件)</li> </ul> </li> <li>○乳がん、子宮がん検診 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん検診:122件(対前年度比:△2件)</li> <li>・子宮がん検診:821件(対前年度比:+15件)</li> </ul> </li> </ul>
	15 新病院の建設	<p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和2年5月4日に病院機能移転し5月7日に開院。</li> <li>○令和2年6月より旧病院解体・外構工事に着工、令和3年3月末時点での進捗率は98.23%。令和3年9月末竣工予定。</li> </ul>
	16 全職員の接遇教育を継続的に実施	<p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症感染防止のため未実施</li> </ul>
	17 患者満足度アンケートの実施及び検討	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○満足度調査を平成27年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:令和2年9月14日～18日</li> <li>・回収数:外来377人、入院97人</li> </ul> </li> <li>○訪問看護満足度調査を平成25年度から継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間:令和3年2月4日～2月22日</li> <li>・回収数:83人</li> </ul> </li> </ul> <p>【◆取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調査報告書(別添資料)を作成し、院内外に周知。</li> </ul>
③診療報酬の確保	18 診療報酬改定への迅速な対応	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営健全化検討委員会において、施設基準新規取得に向けての検討。</li> </ul> <p>【主な施設基準の取得状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓ペースメーカー指導管理料に規定する遠隔モニタリング加算:令和2年4月1日(新規)</li> <li>・先天性代謝異常症検査:令和2年4月1日(新規)</li> <li>・エタノールの局所注入(甲状腺):令和2年7月1日(新規)</li> <li>・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算:令和2年8月1日(新規)</li> <li>・婦人科特定疾患治療管理料:令和2年10月1日(新規)</li> <li>・せん妄ハイリスク患者ケア加算:令和2年10月1日(新規)</li> <li>・(療養・就労両立指導料)相談支援加算:令和2年11月1日(新規)</li> </ul>
	19 DPCの適正運用、管理	<p>【◇取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○DPC分析システムにより、3か月毎のDPCデータ分析を実施し、各診療科へのフィードバックすることで質の高い効率的な医療の提供。</li> <li>○機能評価係数 令和2年度:0.1023(令和元年度:0.0998)</li> </ul> <p>※DPC制度(診断群分類包括評価制度)とは・・・病気に対して効率よく無駄のない透明性のある医療を行うことを評価するもので、基本的には、入院初期に医療資源を集中的に投入し、早く病気を治すことにある。結果的に入院期間(在院日数)は短くなり、患者さんの経済的な負担や身体的ストレスが軽減される。また、患者さんを効率よく最短距離で治療・回復をした場合に、病院の入院収益が最も大きくなるような仕組みになっている。</p>

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
③診療報酬の確保	20	レセプト請求精度の向上 【◇取組状況】 ○院内での点検・精査の強化についての継続実施。 ○診療報酬検討委員会での査定分析。 ○査定状況を医師、担当部署に情報提供。 ○診療会議において査定分析状況の周知。 【◆取組結果】 ○令和2年度査定率:0.81%(対前年度比:+0.23%)
	21	未収金の縮減 【◇取組状況】 ○診療費のお願いについての文書等を送付し、督促強化。(125件) ○不納欠損処理を実施(23人:69件:3,521千円) ○嘱託職員を1人配置。 【◆取組結果】 ○令和2年度末診療報酬個人未収金残高:17,166千円 (対前年度末:△4,349千円)
	22	電子カルテシステムを活用した適正な収益確保及び請求漏れ防止対策の強化 【◇取組状況】 ○電子カルテ内のポータルサイトに、患者数動向などの情報を掲示することにより情報共有化。 【◆取組結果】 ○新電子カルテの更新により、包括入院料に関して、算定時に包括項目と出来高項目が明確に表示されるため、精度の高い算定が可能。また、機能がより充実したことにより算定の可否についてより正確に把握でき、診療報酬請求の精度が向上。

## 2)経費削減・抑制対策

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
①人件費の適正化	23	新病院開院時期を見据えた病棟再編に伴う人員配置の適正化 【◇取組状況】 ○病棟再編に伴う患者数に対応した適正な職員の配置転換等の実施。
	24	時間外勤務の縮減 【◇取組状況】 ○看護師における変則3交代制勤務を引き続き実施。 ○衛生委員会にて各職場における時間外労働の実態について情報共有。
②委託費の適正化	25	業務委託内容の点検、見直しによる委託費の適正化 【◇取組状況】 ○医療事務委託業務について、総合評価方式により業者選定し委託。 ・期間:平成30年7月1日から令和5年3月31日まで ・毎月1回委託業者との定例会にて意見交換等を行っている。 ○外部コンサルタントによる委託費適正化に向けた情報提供や提案。
③その他費用の適正化	26	薬剤、診療材料の適正化 【◇取組状況】 ○※ベンチマークシステム等による材料費の価格交渉。 ・医薬品:△1,849,668円、診療材料:△363,582円 ○診療材料を同等機能以上で安価な製品への切替により診療材料費の削減。 ・削減額:△285,120円 ○後発医薬品への切替により、医薬品費の削減。 ・削減額:△273,600円 ○近隣の病院(県立中央病院ほか)との共同購入による診療材料費の削減。 ・削減額:△378,714円  ※ベンチマークシステムとは・・・システムを導入している各病院から薬剤・診療材料の契約単価や購入実績データを集計し、平均単価、採用品の市場状況等が公表される。

実行プラン			令和2年度 取組状況及び取組結果
③その他費用の適正化	27	医療機器の適正な購入	【◇取組状況】 ○機器選定委員会による適正機器の選定。(価格、ランニングコスト、性能等の比較検討)
	28	新病院建設の建築単価抑制	【◇取組結果】 ○アスベスト処理工事による設計変更により、工事費が増額。
<b>3)経営安定化対策</b>			
実行プラン			令和2年度 取組状況及び取組結果
①医療従事者の確保	29	島根大学医学部、島根県及び地域医療支援センターとの連携	【◇取組状況】 ○島根大学医学部各教室を定期的に訪問し、医師派遣の要望。 ○島根県が主催する医療審議会等の場で医師不足を含めた地域医療の実態を説明。 ・島根県地域医療支援会議(令和2年12月17日、令和3年3月18日) ○地域医療支援センターが主催する県内基幹型臨床研修病院連絡会(8病院)の場で、研修医の確保・研修内容等について情報交換や意見交換。 ・令和2年6月5日、8月7日、10月30日、令和3年2月12日(WEB開催)
	30	大田市出身学生や研修医とのつながりを強化	【◇取組状況】 ○大田市医療政策課を交えた臨床研修推進室医師による大田市出身の研修医への面談。(1回)
	31	大田総合医育成センターの支援強化	【◇取組状況】 ○総合医療学講座、育成センター会議の事務局として、会議の開催支援。 ○育成センター医師の研究支援。
	32	医療従事者の勤務環境改善	【◇取組状況】 ○事務補助員の継続配置。(医師クーク18人、外来クーク10人、病棟看護師長クーク6人)
②医療従事者の育成	33	臨床研修病院としての体制整備等	【◇取組状況】 ○臨床研修専門部会で令和3年度から受け入れる研修医の指導計画を検討、作成。 【◆取組結果】 ○初期臨床研修医受入数増。 ・令和2年度:4名(対前年度比1名増)。 ○学生、研修医の見学旅費支給制度を県内の学生16人、県外の学生1人が利用。 ○初期研修医の短期協力型研修の受入。 ・島根大学1人 ○医学生奨学金の貸付を29年度から継続して実施 ・令和2年度奨学金貸与者:3人 貸付額:360万円
	34	医療現場実習の積極的な受入	【◆取組結果】 ○医学生実習を積極的に受入れ(5,6年生16人)、実習中に当院医師との交流を行った。 ○養成学校からの実習受入。 ・看護師4人、准看護師18人、理学療法士2人、作業療法士3人
	35	病院見学の受入	【◆取組結果】 ○小学生の病院見学、中学生の職場体験、高校生の医療体験セミナー・インターシップ等の受入。(小中学校は中止) ・高校生4人

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
②医療従事者の育成	36	<b>職員の経営参画意識の向上</b> <b>【◇取組状況】</b> ○保険診療に関する説明会を、全職員を対象に実施。 ・令和2年11月(3日間、計3回)、令和3年3月(3日間、計3回) ○毎月開催している診療会議において、患者状況及び収益状況等を説明。 ○部長職以上の職種で構成された部長会において、経営状況を説明。 ○外部コンサルタントによる分析結果及び経営改善策の説明会を実施。
	37	<b>病院情報・経営情報の収集、課題抽出、実践</b> <b>【◇取組状況】</b> ○電子カルテシステムトップページに病院情報、経営情報の速報値を掲載し、職員の情報共有。
	38	<b>経営健全化検討委員会の開催及び取り組み</b> <b>【◆取組結果】</b> ○20回開催。診療所訪問など計15個の議題について協議、報告。(9回のワーキンググループ検討会を含む)
	39	<b>人事考課制度の適切な運用による人材育成</b> <b>【◆取組結果】</b> ○インセンティブ支給の廃止により人事評価未実施。
<b>4)その他の対策</b>		
実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
①公益性、公共性の高い医療の確保	40	<b>【◆取組結果】</b> ○DMAT(災害派遣医療チーム)隊員の増員。(医師1人) ○中国地区DMAT連絡協議会実動訓練(開催中止)
	41	<b>【◇取組状況】</b> ○5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)5事業(小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、地域医療)に対応。 ○特に、地域医療では診療所の診療体制確保のため、令和3年1月から池田診療所へ医師を3名派遣。
	42	<b>【◆取組結果】</b> ○令和2年度繰入金総額:1,014,087千円
	43	<b>【◇取組状況】</b> ○地域包括ケアシステム構築に向け、院内では多職種で連携し、入退院支援。 ○地域の研修会にも積極的に参加し、顔の見える関係づくりに向け、地域の様々な関係機関(医療・介護・行政等)と連携。 ○市と委託契約により、リハビリテーション職員による介護職員や行政等への助言、住民等への助言・指導の実施。
②住民の健康づくり	44	<b>【◆取組結果】</b> ○糖尿病教室(外来でのポスター掲示にて3回実施。) ○栄養食事指導実施。 ・個人指導:3,578件、集団指導:未実施(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)
	45	<b>【◆取組結果】</b> ○出前講座の実施。(実績詳細は別添資料) ・計7回、参加者361人 ○ふれあい講座の実施 外来でのポスター掲示において、健康に関する知識及び健康の維持に役立つ情報提供を行った。(脱水予防、応急処置、感染対策等)

実行プラン		令和2年度 取組状況及び取組結果
③広報活動の推進	46 広報活動の推進	<b>【◆取組結果】</b> ○病院広報誌「銀の風」を4回発行。 ○ホームページ、フェイスブックによる適時な情報発信。 ○ぎんざんテレビを活用した情報発信。
④その他	47 各種イベントの開催	<b>【◆取組結果】</b> ○病院まつりは新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止 ○看護の日 ・エントランスホールで看護の日の紹介や看護師の取組みなどをポスター掲示により紹介。また院内保育所園児のお遊戯などを映像で紹介。
	48 職員の健康管理	<b>【◆取組結果】</b> ○衛生委員会を月1開催し、職員の健康管理に係る所管事業を実施。 ・職員定期健康診断:年2回(令和2年5月、11月) ・ストレスチェック:令和2年9月 ・各種ワクチン接種:麻疹、風疹、B型肝炎、インフルエンザ、ムンプス ・健康管理研修会年1回開催:テーマ「歯科衛生(“健口”を守るためには一歯と口腔の維持管理について)」 ○年次有給休暇5日以上取得義務化により、各所属において計画的に取得するよう所属長に周知。

## 4. 大田市立病院新改革プランに基づく数値計画、目標の達成状況

### I. 大田市立病院の果たすべき役割

#### ■ 医療機能・医療品質に係る目標

(1) 医療機能・医療品質に係る目標(新改革プランP.15)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
救急患者数(人)	6,076	8,200	5,660	△ 2,540	
手術件数(人)	498	1,000	638	△ 362	
分娩件数(件)	205	270	200	△ 70	
臨床検査件数(件)	796,497	664,085	800,594	136,509	
画像診断装置稼働件数(件)	23,588	26,000	24,952	△ 1,048	
薬剤管理指導件数(件)	3,584	3,607	3,493	△ 114	
栄養指導人数(人)	3,517	5,200	3,578	△ 1,622	
リハビリ件数(人)	39,088	49,600	45,158	△ 4,442	
訪問看護患者数(人)	3,908	5,068	4,127	△ 941	

(2) その他の目標(新改革プランP.15)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
研修医・医学生の研修受入件数(人)	23	42	25	△ 17	
看護師・セラピスト等の実習受入人数(人)	54	88	27	△ 61	
人間ドック件数(件)	170	200	160	△ 40	
健康診断件数(件)	237	180	273	93	
健康・医療相談件数(件)	2,013	1,930	2,260	330	

### II. 経営の効率化に向けての課題と方向性

#### ■ 今後の経営効率化に向けての課題と方向性

(1) 収支改善目標(新改革プランP.24)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
経常収支比率(%)	94.6	92.7	95.2	2.5	○経常収益÷経常費用×100
医業収支比率(%)	89.3	90.5	86.4	△ 4.1	○医業収益÷医業費用×100
資金期末残高(百万円)	490	85	200	115	

## ■ 経営効率化に向けた具体的な取り組みと数値目標

### (1) 具体的な取り組みと数値目標

#### 1) 収入確保対策数値目標(新改革プランP.25)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
1日平均入院患者数(人)	168.5	204.0	178.8	△ 25.2	○年延入院患者数÷入院診療日数
1日平均外来患者数(人)	455.3	509.7	472.4	△ 37.3	○年延外来患者数÷外来診療日数
入院単価(円)	39,853	41,281	41,792	511	○年延入院患者数÷入院収益
外来単価(円)	9,227	9,461	9,083	△ 378	○年延外来患者数÷外来収益
病床利用率(%)	52.4	89.1	78.9	△ 10.2	○許可病床利用率
医業収益(百万円)	3,822	4,568	4,091	△ 477	
訪問看護収益(百万円)	38	49	40	△ 9	

#### 2) 経費削減・抑制対策数値目標(新改革プランP.26)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
給与費対医業収益比率(%)	72.7	64.8	75.3	10.5	○給与費÷医業収益×100
材料費対医業収益比率(%)	15.4	16.3	15.6	△ 0.7	○材料費÷医業収益×100
経費対医業収益比率(%)	18.1	15.4	17.9	2.5	○経費÷医業収益×100

#### 3) 経営安定化対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
常勤医師数(人)	29	29	38	9	
年度末職員数(人)	403	438	416	△ 22	

#### 4) その他の対策数値目標(新改革プランP.27)

項目	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
		(目標)①	(実績)②		
健康講座・予防教室等の開催(回)	31	30	13	△ 17	

## ■ 収支計画

(1) 収支計画(新改革プランP.29)

1) 収支計画(収益的収支)

(単位:百万円)

区分	年度	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収 入	入院収益	2,448	3,073	2,704	△ 369	
	外来収益	1,011	1,180	1,030	△ 150	
	一般会計負担金	631	720	728	8	
	その他	180	128	768	640	
	計 (A)	4,270	5,101	5,230	129	
支 出	給与費	2,807	2,992	3,112	120	
	材料費	595	754	646	△ 108	
	経費	700	712	740	28	
	減価償却費 資産減耗費	209	630	279	△ 351	
	支払利息	36	186	44	△ 142	
	その他	171	226	1,055	829	
	計 (B)	4,518	5,500	5,876	376	
差 引 (A) - (B)		△ 248	△ 399	△ 646	△ 247	

2) 収支計画(資本的収支)

区分	年度	元年度 (実績)	2年度		比較 ②-①	備考
			(目標)①	(実績)②		
収 入	企業債	7,971	679	723	44	
	基金繰入金	44	18	90	72	
	一般会計負担金	513	253	286	33	
	その他	340		166	166	
	計 (A)	8,868	950	1,265	315	
支 出	建物整備費	7,583	689	761	72	
	器械備品整備費	994	30	179	149	
	企業債償還金等	438	389	433	44	
	長期貸付金	7		11	11	
	その他	0		1	1	
	計 (B)	9,022	1,108	1,385	277	
差 引 (A) - (B)		△ 154	△ 158	△ 120	38	

## 5. 大田市立病院運営評価委員会委員名簿

(敬称略)

所 属	役 職	氏 名	備 考
大田市議会	民生委員長	森 山 幸 太	
大田市議会	民生副委員長	林 茂 樹	
大田市医師会	会 長	福 田 一 雄	副委員長
島根県県央保健所	所 長	梶 浦 靖 二	
大田市社会福祉協議会	会 長	西 村 俊 二	委員長
大田市自治会連合会	会 長	森 山 護	
大田市立病院を守り育てる会	事務局長	渋 谷 次 夫	
病院ボランティア カーネーション		森 山 朝 子	
大田市	健康福祉部長	林 泰 州	

### (参考) 大田市立病院概要

病院名	大田市立病院
経営状態	地方公営企業法全部適用
所在地	島根県大田市大田町吉永1428番地3
病床数	339床(一般280床、療養55床、感染4床)※令和2年5月3日まで 229床(一般180床、療養45床、感染4床)※令和2年5月4日以降
診療科目	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器科、 小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、 リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 (計20科目)